

らしっく

自分らしく、粋なくらし

2009.8 Vol.24

流星号

りゅうせい／「消えるまでに願い事をするとその願いが叶う」という流れ星。毎年8月12日～13日頃には、三大流星群と呼ばれる「ペルセウス座流星群」を眺めることができます。1時間に50個も流れる星たちが、夏の夜空を鮮やかに彩ります。

まちづくり・生涯学習情報誌

- 特集「善意が支える財源」…………… P1
- らしっくコラム／らしっくキャンパス …… P4
- プラザ通信 ……………… P5
- らしっく情報の森 ……………… P9
- ひろしま八区イベントガイド ……………… P11



「善意が支える財源」

1000万円の運営費は寄付と会費で支える ● 社会福祉法人 広島いのちの電話

地域に息づくつながりが活動を支える ● NPO法人 佐東地区まちづくり協議会

「こうなったらいいな」を、楽しみながら実現したい ● from grassroots 広島

「始めなければ始まらない!」 ● 広島市市民局 市民活動推進課 まちづくり支援担当課長 山崎 学

らしっくキャンパス ● 広島市立大学 環境サークル「ねっこ広島」

特集 「善意が支える財源」

ボランティア・市民活動を継続して行うに当たってのハードルの一つが、資金の問題。寄付や事業収入、助成金など、資金確保にはさまざまな方法があります。今回は2つの団体に、現状や工夫点を聞いてみました。

1000万円の運営費は 寄付と会費で支える

「社会福祉法人広島いのちの電話」
事務局 ☎082-221-3113 <http://www.enjoy.ne.jp/~hll/>

「電話を受ける相談員の方。アドバイスではなく、傾聴することで「生きる力」を取り戻してもらうのが主眼(トライバシー保護のためヒントを外してあります)」



電話で救う命

「広島いのちの電話」は、24時間、年中無休で相談を受けるボランティア団体です。精神的な危機に直面し、特に自殺のおそれがある人に対し、親身に話を聞き、共感することで生きる力を取り戻してもらおうことを目的としています。電話は匿名でかけることができ、秘密は厳守されます。相談員は、2年間の研修を修了し、その後毎月1回の研修を継続するボランティアです。現在、約180名の相談員が在籍し、1人が月2回以上の昼の当番と、年1回以上の深夜当番をこなして、2台の相談電話を休みなく維持しています。広島いのちの電話は1988年に開局し、98年に社会福祉法人にな

りました。しかし、社会福祉法人の認可を受けても、老人ホームの経営等と違い、第2種社会福祉事業のため、国の補助はありません。

活動を支える財務基盤

事業の運営には、年間約1千万円の経費が必要です。専属スタッフの人件費、光熱費、施設の賃借料、通信費などの固定費がその7〜8割を占めます。これらを支える収入は、寄付金が約480万円、資金ボランティアである維持会員の会費が約300万円。活動に共感する「善意」で成り立っていることが分かります。また、相談員養成講座の受講料収入が約90万円あり、財源の大きな支えとなっています。

その他、広島市からの補助金や、バザー等での雑収入、繰越金などで総予算をまかなっています(数字はいずれも2008年度)。寄付や維持会員の募集は、主にパンフレットやホームページなどで行っていますが、印刷費約53万円など、この広報活動にも少なからぬ

費用がかかっているのが実情です。

「本当の意味でのボランティア」

相談員になるには月1回、2年間の研修を受けますが、研修費用として年間3万5千円が必要です。相談員は無報酬であるほか、交通費の支給もありません。また、相談員の約8割の方が、同時に維持会員にもなっています。相談当番のほか、月1回の継続研修、さらに運営などにも参加し、多忙です。

相談件数は開局時、年間約1万件でしたが、年々増加し、2008年度は15647件でした。不況の影響もあり、以前にも増して鬼気迫る様子での電話も多く、一つの相談に1時間半以上かかることも。相談員は当番を終わると、疲弊しきった表情をうかべます。

事務局長の守下さんは「一切の見返りを求めない、本当の意味でのボランティア。相談員を志す動機は人それぞれだが、その一つひとつが『何とか人を助けたい』という一つ

地域に息づくつながりが 活動を支える

「NPO法人佐東地区まちづくり協議会」
事務局 ☎082-876-4360(緑井駅前サロン)

地域が生んだNPO

「佐東地区まちづくり協議会」は、安佐南区の八木、緑井、川内、梅林の各地区を活動エリアとするNPOで、同地区の全町内会、商店街振興組合、社会福祉協議会など68団体で構成される、文字通り地域ぐるみの組織です。この一帯が以前、「佐東町」という地名だったことが、この名前の由来です。

JR可部線緑井駅を出ると、林立する大型店舗の前に、ガラス張りの建物が目に付きます。ここが「緑井駅前サロン」。地域の人たちが誰でも気軽に立ち寄れる場所を目指して、つくられました。佐東地区まちづくり協議会が運営し、団体の拠点もここにありま

サロンを拠点に 幅広い活動

緑井駅前サロンでは、高齢者や障がい者の外出支援として電動スクーターの無料貸出しを行っています。利用するにはサロンへの登録が必要

▼(上)緑井駅とフジグラン緑井の間にある緑井駅前サロン。子どもを事故や犯罪から守る「子ども見守り隊」の拠点にもなっている(下)コーヒーを飲んだり、電動スクーターを利用すると「心付け」を置いていく人も多く、寄付金収入の一部になっている



になっ

ています。佐東地区まちづくり協議会は、このサロンの運営の他にも古川にホテルを繁殖させる「ホテルの里づくり」事業や、まちづくりに関する講演会の開催、地域イベントである3月の「梅林春こい祭」や、7月の「せせらぎの夕べ」などへの協賛など、幅広い活動を行っています。

自分たちで支える、自分たちの活動

2008年度の支出は、イベント事業へ約65万円、ホテルの里づくり事業へ約55万円など、合計で約200万円でした。そのうち、タウンモビリティ事業(電動スクーター貸出しなど)は約30万円です

たが、利用者が増えれば現在3台あるスクーターを5台に増やす計画のため、新たに費用が1台40万円ほどかかる予定です。それらを支える財源は、会費収入(1人5000円)が合計で75万円、有志の方や企業からの寄付金収入が50万円と、6割強を会費と寄付で支えています。

これは、もともと農業が盛んで、地域の繋がりが強いことを活かし、町内会などを通じて人づてで会員を集めることができたことにあります。古くから住んでいる方の中には「地域のための活動なら」と、積極的に寄付してくれる方もいます。それだけに頼らず、サロン横の

の目標に向かって、広島いのちの電話が成り立っている」と語りま

す。現在の相談件数をこなすには、相談員が200人は必要、と守下さん。相談員の募集は2年に1回のため、次回の募集は再来年2月からの予定です。また、維持会員(資金ボランティア)は随時募集しています。

●電話相談の案内 広島いのちの電話(相談)

- ☎082-221-4343
- 24時間いつでも電話をかけられます。(年中無休)
- 個人の秘密は厳守します。
- 名前を告げる必要はありません。
- お互いの宗教や思想を尊重します。
- 相談は無料です。
- 所定の訓練を受け、認定された相談員がお応えします。

●寄付金情報 維持会員募集

- 【個人会員】年間1口2,000円(1口以上何口でも可)
 - 【法人会員】年間1口10,000円(1口以上何口でも可)
 - 【寄付金】特に定めません
- 問合せ ☎082-221-3113(事務局)



▶電動スクーターは車体に広告を載せており、その広告収入もある

スペースを使った有料駐輪場の運営(1月100円)や、集会所としてのサロンの貸出し(1時間200円)、町史・記念誌の販売などを行い、約28万円の事業収入を確保。助成金も積極的に申請し、昨年度は約40万円の助成を受けています。

取材日は折しも雨の強い日で、取材中、小学校の校長先生からサロンに「雨が強く、早めの下校になるかもしれないので子どもの見守りに協力」との電話がありました。こういう連絡は日常的に行われているそうです。地域との信頼関係があり、それが継続的な活動を支えていると言えそうです。

●サロン情報 緑井駅前サロン

- ☎082-876-4360
- 住所: 安佐南区 緑井 1-6-1 (JR可部線 緑井駅前)
- 開館時間: 10:00~15:00
- 定休日: 日曜・祝日、お盆、年末年始

▲リユースプロジェクトについて会議。会議中に使うコップなどもマイカップやリユース食器



「こうなったらいいな」を、楽しみながら実現したい

フロム グラスルーツ
[from grassroots 広島] みなみざわ
http://from-grassroots.com/ 問合せ ☎090-1330-1341 (副代表・南澤)

10代後半～30代の若い方たちが中心になって、環境や平和問題など幅広い活動に取り組んでいる団体があります。目指すのは「持続可能な社会」。仕事の合間を縫い、楽しみながら行っている活動をご紹介します。

広島を、持続可能な社会のモデル都市に

「From grassroots 広島」(以下 f g 広島)の会員は現在約80名。中心となって活動しているのは、10代後半から30代の若い方たちです。活動をスタートしたきっかけは、2007年に上映された地球温暖化問題を訴えるドキュメンタリー映画「不都合な真実」。この映画を観た代表の平尾順平さんと副代表の南澤克彦さんが「もっと多くの人と観たい」と考え、上映会を計画。同年9月、西区民文化センターで上映会を実施すると、600人が来場しました。

来場者の中で2人の活動に共感した人たちが、その知人などが集まり、せっかくできたつながりを新しい活動につなげていこうという思いから、f g 広島の活動が始まりました。

翌年5月にはフラワーフェスティバルに参加して、自転車をこいで家電を動かす「人力発電」を実施。10月には環境活動家田中優氏を招いての講演会を開催。12月にはサンタクロースの格好でゴミを拾う体験学習「サンタプロジェクト」を実施するなど、活動内容は多岐にわたっています。

今年の活動のメインは、「リユースプロジェクト」

「使い捨て食器」から「リユース(再使用)食器」へ……。お祭りやイベントなどでは、使い捨てのコップや皿、箸などが大量のゴミとして発生します。リユース食器を使うことで、ゴミの発生を抑え、資源の浪費も抑制するのが「リユースプロジェクト」です。

最近では環境意識の高まりで、全国的にリユース食器の活用が増え、環境保護を目的とした食器のレンタルを行う団体や組織も増えていますが、広島市内にはまだありません。f g 広島は、まず自分たちがレンタルを行う団体となつてノウハウを蓄積し、その後はそのマニュアルをインターネットなどで公開することで、リユース食器が普及し、市民の環境意識が高まることを目指しています。

今年「システムの構築段階」(副代表の南澤さん)。まずは食器と洗浄などに必要な資材を購入し、夏に多いお祭りや音楽イベント、秋に集中する学園祭などで導入してもらおうと考えています。

マニュアル公開後はリユース食器を市民の共有財産にすることも視野に入れていきます。やがて広島市民球場の飲食店にも導入されるようになれば、食器の洗浄などで新たな雇用も創出でき、さらに市民の環境意識も高まるのではと考えています。

「活動は、音楽やダンスと同じように楽しい」

メンバーたちは仕事が終わった後、夜や週末に集まります。活動を続ける動機は何かとの問いに「楽しいから」との答え。「音楽やダンスで何かを表現することが自分も周りも楽しくさせるのと同じように、社会に何かを伝えるプロジェクトは想像以上に楽しい。自分たちの「こうなったらいいな」というシンプルな思いを実現していきたいと思っています」(リユースプロジェクト担当の古賀さん)。

「できる人が、できることを、できる時に、楽しく」をモットーに活動を続けています。

▲昨年暮れに行ったサンタプロジェクトでの記念撮影



第3回 らしくコラム

こちらのコーナーでは、広島市で活動されている団体代表の方に市民活動やボランティアに対する思いをお聞きしています。みなさんの思いと重なり、活動の輪が広がることを願って…。



山崎 学 やまさき まなぶ
■所属団体 広島市市民局 市民活動推進課 まちづくり支援担当課長
■活動内容 市民活動推進課職員として地元のまちづくり組織を指導・応援しているほか、平成7年にカフェテラス倶楽部を結成し、公私共にまちづくり活動に関わっている。
■活動のきっかけ 大学から都市問題やまちづくりに興味を持ち続け、仕事で地元のまちづくり協議会と一緒にまちづくりを経験してきたこと。
■現在の状況 「コイン通り街づくり委員会」等で地元のまちづくり組織を指導・応援しているほか、水上タクシーを運行するNPO法人「雁木組」、ボランティア・シティガイド「ひととき」、基町ポプラ通りの緑地管理やイベントをしている「ポプラヘアレンツクラブ(PPC)」、[ひろしま路上観察倶楽部]等で活動中。
■連絡先 ☎050-3432-8900
Eメール: townwalk@fureai-ch.jp

「始めなければ始まらない!」

私のかかわっている活動は、屋外で行うことが多いので苦勞が絶えません。基町ポプラ通り(中央公園西の河岸緑地)で5月17日に順延して開催した「第2回夕風コンサート」では、本来の開催日である16日朝の天気予報で、16日が昼から弱い雨、17日も夕方まで雨で以降は曇り、風強しということでした。バイオリンとハープの屋外演奏会で特にバイオリンは湿度に弱いと

▲第1回夕風コンサート



いうこともあり、順延か、中止か、強行かを決断しなければなりません。順延の場合、新たな費用が発生しないか、スタッフなどの手配は大丈夫か。中止の場合、払い戻しの手配、赤字のお金をどう負担するか。強行の場合、もし途中で中止になったら誰が責任を取るのか、お客様にとって一番良い選択は何か、等々。こんな心配がいつも付きまとうのが屋外イベントです。当日だけでなく、会場準備やチケット販売、スタッフの手配など、開催準備には時間と労力がかかります。

こんな調子で、それでも懲りずにやっていますが、ありがたいことに、この場所でのイベントには毎回大勢の方(今回は当日スタッフ50人)が力を貸してくださいました。

かも、かかわる人のほとんどが働きたがっているボランティアで手伝ってください。この他にも色々な活動にかかわっていますが、実は参加する人の多くは仕事を持っている人なのです。

一方で、どうすれば働きたがって活動できるのかと聞かれることもあります。正解かどうか怪しいですが、私の答えは次の通りです。

ボランティアは、自分の得意なことができる事を、できるだけ量、責任を持って行うことが基本です。最初はあまり欲張らない、無理をしない。まずはできることから良いのです。今回のイベントも、当日だけのお手伝いという人が半数以上です。この人たちに「参加してよかった」と言ってもらえることが中心スタッフとしては一番嬉しいことなんです。

あれこれ議論ばかりする人、できない理由が先に浮かんでしまう人、条件が整ってから始めようと思う人。こういう人を何人か知っています。が、始まった試みがありません。ボランティアや社会貢献活動は、行動するかしないかの二通りです。第一歩を自分の意志で踏み出すことしかないと考えます。どうすれば踏み出せるかを考え、その状況を作り出すことが大事です。あなたの活動は、あなたが自分の意志で「始めなければ始まらない」のです。最初の一步を私と一緒に始めませんか。ぜひ、「相談ください」。

活動の中で苦勞したことを何うと、「前準備はもちろんなのですが、一番大変なのはやっぱりイベント企画の時の意見をまとめあげていくことです」と企画から運営までを自分たちだけで行っていくことの難しさを挙げていました。

しかしその一方、「ひとつひとつのイベントが大変な分、やり終えた後の達成感はすごいです。もう、さみしいくらいの達成感ですよ」とまで言うのですから、イベントへの熱の入れ方がよくわかります。

また、「地域貢献活動としてゴミの分別活動などを行っているときに、住民の方から「ご苦勞様です」といった励ましの言葉をもらえたときの喜びや、自然学習のときなどに子どもや地元の人たちから名前を覚えてもらったりして、いろいろな人と出会えるのがとても楽しいです」と活動の中の喜びを話してくださいました。

今年度はすでにフラワーフェスティバルでの活動のほか、サンフレッチェのCO₂削減イベントへの協力などを行っており、昨年に引き続き様々な活動を行っていく予定です。



取材させて頂いた湯木さん、本当にありがとうございました。

らしくキャンパス

レポーター 広島市立大学マスコミ研究会
児玉 健一、原田 靖子、大下 陽子

広島市立大学 環境サークル **ねっこ広島**
代表 **湯木 奈津美さん**

今回のらしくキャンパスでは、地域に根差した活動を目標とし、フラワーフェスティバルをはじめ、地域企業、他大学、地域の方々の合同イベントなどを行っている広島市立大学の環境サークル「ねっこ広島」へ取材に行かせていただき、代表の湯木さんにお話を伺ってきました。

元々環境問題に興味のあった湯木(ゆき)さんは、大学で何らかの形で環境関係の活動にかかわりたいという思いを持っており、大学に入学して環境系のサークルを探すうちに「ねっこ」を見つけ、活動に参加されました。

基本的に学外での活動が主だった活動になっている「ねっこ」では、活動の際の苦勞も大きいようです。修道大学の同じ環境系サークル「がんば」(らしく21号で紹介)さんと合同企画を行ったフラワーフェスティバルでは、5月の本番3ヶ月前からすでに打ち合わせの会議などを行い、本番までの準備期間中は週に一回ペースで打ち合わせを行っていました。

また、学外で地域の住民の方と共同で行っている活動に、地域児童を対象とした自然学習事業、「おくはた分校」があり、その活動ではイベントの企画から運営までを行っています。